

令和5年度 第1回豊田市地域保健審議会

開催日時：令和5年8月2日 午後1時15分～午後2時40分

場所：豊田市役所 南庁舎7階 南74委員会室

出席者（敬称略）：加藤真二（会長）、田代和久（副会長）、安藤広重、岩月幸雄、大橋一之、酒井恵子、重松良祐、中出美代、宮澤清人、吉田哲也
（欠席者）：谷友一郎、長谷川喜代美

（市側出席者）古澤保健部長、竹内保健所長、佐野保健部副部長、伊地知総務課長、浅井保健衛生課長、河合感染症予防課長、長島地域保健課長、寺田保健支援課長、宮川こども家庭課長、鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹、都築総務課副課長（司会）

●古澤保健部長
豊田市挨拶

●竹内保健所長
豊田市挨拶

○加藤会長
審議会会長挨拶

議事

【協議事項】

（1）（仮）豊田市健康づくり運動プラン（第四次）の策定について

○重松委員

（仮称）豊田市健康づくり運動プラン（第4次）策定委員会において会長を務めている重松です。本会は、5月31日に令和5年度第1回、7月26日に第2回の策定委員会を開催しました。

詳細については、事務局から説明をお願いします。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

（仮）豊田市健康づくり健康プラン（第四次）の策定について説明

○加藤会長

説明が終わりましたので、この内容につきましてご意見ご質問等ありましたら、ご発言をお願いいたします。

○中出委員

具体的な重点取組例の（１）学生発信の健康づくり【新規】とあり、学生自身が考案し効果的に情報発信を行うということも必要だと。確かに、学生の学生による学生のための啓発というのが大事だということで、24 ページにその部分を書いてあると思います。重点的に取り組む理由ではそこの背景が見えてくるのですが、主な取組が全部受け身で学生発信のものが無い気がします、ここはどのようなんでしょうか。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

素案の資料2の27 ページをご確認いただきたいのですが、この上の（２）の①のこちらの方に載せてございますので、ちょっとわかりにくくて申し訳ありませんでした。

○中出委員

24 ページが対応してるとって見ていました。それでですね、ここからまた参考にとということなんですが、東海学園大学は名古屋市とみよし市と両方あり、名古屋市の方に健康栄養学部があります。私はそこで栄養教育を担当しているので、名古屋市さんから依頼がありまして、毎回食育推進計画の時に協力しています。やっぱり、学生のための学生による食育ということで、このアンケートも自分たちで取って、啓発する資料も作ってそれを啓発していくというのもやっているんですね。なのでそういった取り組みが必要だと思っています。みよし市はコースとか違う学部ですが、実はうちの大学自体が今健康経営に取り組もうということで、すごく力を入れ出しているんで、また何かお役に立てることがあるんじゃないかなと感じて、参考までに言わせていただきました。

○加藤会長

ありがとうございました。鷹見さんいいですか。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

ぜひご協力をいただけたらと思いますので、特に栄養の部分がこれからも大事になってくるかなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○加藤会長

その他何かございませんか。

○安藤委員

福祉をやっている身からすると、かなり美しい対象だなという感じがして、実

は市民って健康な人から不健康な人まで、白か黒かではなくて、グラデーションのように分布してると思います。

我々がお相手する方はどっちかというところとグレーであったり、黒っぽい方があるんですけども、そういう方々であっても健康には取り組んでいく必要があって、書いてある内容が、割にそういうグレーや黒っぽい方が、何て言うんですかね、そういう方の対象が見えにくいなと思うので、実際の運用の時は、私も高血圧持っていますけども、現実には何か病気持っている人の方が多いと思いますので、そのような人が、事例だとかイメージしやすいなと思います。

それから、保健師さんは専門職ですので、いつも頼りにさせていただいてるんですけども、やはりグレーであったり、それから受診拒否される方も結構ありますので、そういう方への対応も、今後連携として積極的にやっていただくと、この健康の方へ、持ち上げていきやすいなと思っておりますので、ちょっと感想みたいになりましたけど、お願いします。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

決して元気な人ばかりが対象ではないと認識はしておりますので、今後も連携をしてやっていけたらと思っております。ありがとうございます。

○加藤会長

今のに少しだけつけ足したいのですが、今のグレーの方々の健康づくりというのは、要するに余病を持っているような方々に対する、健康づくりのための、運動とか食育とかいうことがあります。ベースに何か疾患を持っている方は、それに対するリスクヘッジをしなければいけない。糖尿病だったらどうか、高血圧だったらどうか、慢性心不全があればどうかという、リスクヘッジを少し考えられるような、取り組みもあっていいというのはあります。この中には少しないんですけど、そういった病気を持っていて、でも普通に運動できるのだろうか、その慢性腎臓病があって、普通にできるのだろうかと不安に思っている人たちも当然あると思うので、そういう人たちに対して少しアプローチができるのとよりいいのかなと、今、安藤委員の話聞きながらとても思いました。つけ足させていただきます。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

ありがとうございます。

○加藤会長

その他、何かございませんか。健康づくり協議会の岩月委員、何かご意見いいですか。連合愛知の大橋委員、何かありましたら。

○大橋委員

我々企業というのか労働者ですけども、この健康経営を進める民間の事業の拡大ということで先ほど中小が対象と言っていましたけれども、やっぱり我々も大手企業になりますと、健康経営のその法人の認定だとかホワイト 500 だとかいろいろあってですね、非常にそういうところの認定を受けようという今意識が大分高まってきています。そういったことからした時に、市独自のセミナーをやるだとか情報交換やるようなことも書かれていましたけれども、市でそのような認定というのか、優良企業みたいな、賞を与えるわけじゃないのですけども、資格というのかそういうのがあると少しやりがいを持ってモチベーション持ちながら、中小も何か積極的にやってくれるかな、とかですね、そういうのもあっていいのかなというふうに、ここの保健事業だけのやつでどうこうじゃないんですけども、何かそういう意識がですね、マインドが変わるかなとちょっと思いました。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

その辺りのことは産業部の方とも少し話はしてまして、産業部の方でも、働く人が生き生き輝く事業所表彰というものがあまして、そこでも健康経営を積極的に取り組んでるところはその部分が加点をされて、表彰の対象になるという制度があります。そのため、改めて健康づくりの賞をもう1個作るか、あるいは、そこに混ぜ込んで、健康経営をやっているところを少し加点するとか、いろいろな方法があると思いますが、その辺りのことも少し考えてはおりまして、ちょっとまだ具体的なところまでは詰めておりませんが、引き続きこちらは検討していかないといけないという認識でおります。

○加藤会長

そういうのがあると本当にモチベーションに繋がると思います。とてもいいご意見だったと思います、ありがとうございます。市民代表の酒井委員、何かありますか。

○酒井委員

皆さんが協力してとてもすばらしい計画で、コロナも減少し始めてもまだまだこれからどうなるかわからないというところで、どうぞ皆さん活躍し、市民が安心して何かいい案で、健康づくり、今、年齢とともにフレイルをどのようにしてくれるのかなというところも思いますけれども、ぜひ頑張ってやっていただきたいと思います。応援します。

○加藤会長

ちょっと僕の方から、先ほどの他の部との共働でというかインセンティブというような話がありましたけど、昨日市長さんが話していたのは、この、先ほど言

われた SIB のことですか。この SIB という企業のところから、いろいろなタイプアップして、元気づくりというようなものやっいていこうというのを、市長さんが昨日、違う会議でお話をされていましたが、これ、そのプロジェクトとの合体みたいなものというのはどんな感じになっているのでしょうか。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

SIB に関しましては、企画政策部の未来都市推進課が、窓口となって進めております。例えば、スギ薬局さんが管理栄養士さんを雇って、栄養の講座をやったりだとか、そういったことをいろんな企業さんが参加をして、進めているような状況です。うちが直接関係はしていませんが、そういったスギ薬局さんなどの情報、そういったところにちょっと行ってきなさいよというような、繋ぎみたいなことをやって、うまく活用させていただいている状況でございます。そういったことをもう少し積極的にやっいていかないといけないかなという認識ではおりますので、また新しい計画期間中では、そういったところをうまく活用してやっいていきたいと考えております。

○加藤会長

先ほども部が違ふから、なかなかうまくいかないというのがあって、こちらも部が違ふからなかなかうまくいかないって、やっぱりでも似たようなことをやろうとしていると思うので、何かいいコラボレーションがあるといいのかなと思って質問させていただきました。同じようなことを違ふ部でやっいているというのは、外から見るとそんなに綺麗じゃないので、上手くやっいていただけるとありがたいなと思います。よろしくお願ひいたします。その他よろしいでしょうか。

○中出委員

健康経営の話ですが、認定優良法人として認定するハードルも結構いろんなパターンがあって大変だと思うのですが、継続していくことが一番大変な気がするんですね。私は関わっているのですがなかなかハードルが高いと感じています。この目的は、無関心層をこちらに向かせるということだと思うので、アプリ使ったりして、健康クイズを毎日配信するだとか、そういったことをやっいているところもあるのですが、この1番2番3番4番って独立するのではなく、例えば4番に ICT を使ってみたいなのがあるから、そういうのと健康経営とかをマッチングさせて、少しそういうツールとしてかつ中小企業でも使えるようなものを作っっていくといいかと。大手さんはいろいろ取っ組んでお金を出してそういうアプリを入れたりができるかもしれないのですが、ちょっと中小になったら厳しいので、そういったところの情報発信というのかな、健康情報を何かしら豊田市さんが作っただのものを使えるようになるとそこで継続していけるのかなと思いました。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

おっしゃるとおり、大手の企業さんはそれなりに力があって、独自で詰めていかれることはできるのですが、中小企業さんは本当にそういった担当が1人しかいないとか、事務の人が、事務の傍らそういったことやっているということ、なかなか手をつけたくても手をつけられないというような状況があると伺っております。アプリももちろんそうなんですけど、できることからやってもらうということで、そういった情報ですね、いろんな企業さんがいろんな取り組みをしているので、そういった取り組みが見えるようにして、いろんな企業さんに見てもらって、自分が真似するところからやっていけるというような、そういった環境は作っていきたいと思っております。

○中出委員

あと、自分のところの健康課題が何かというのがはっきりわかっているかどうかというのも疑問だなとは思いますが。このような内容の講演をたまに頼まれてやることがあるのですが、その問題をちゃんと診断してそれから取り組まないところを目指しているかわからなくなって効果が出にくいと思うので。ターゲットを絞った形で始めていくのがよいと思うので、豊田市さんの方がある程度誘導してあげないと小さな企業さんでは難しいかなと思うので、そういうモデルケースみたいなものを作ってあげるのが一番早いのかなという気がします。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

またいろいろ教えてください。勉強になります、ありがとうございます。

○加藤会長

本当に勉強になることでありがとうございます。勉強ついでというかですね、僕ちょっと知識がなくて申し訳ないんですけど、この健康経営というのは、普通の言葉なんですか？中出委員も先ほど普通に健康経営という言葉が使われたので。健全経営というと経営がうまくいっているということで、健康経営っていうのは、経営する中で従業員が健康であり続けることを健康経営というのですか？通常の日本語にもなっているのですか？

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

健康経営というのは経済産業省が進めている取り組みで、この健康経営という言葉も登録商標があって、進めている言葉になっております。中身は今先生がおっしゃったとおりの内容となっております。

○加藤会長

ありがとうございます。

○吉田委員

ちょっと教えていただきたいことが、さっきスギ薬局さんと契約をしてという話がありましたけども、多分薬局の方でも、各店舗いろいろレベルの差があるというのは現実に事実は事実ですよ。スギ薬局さん個々もやっぱりレベルの差があると、何かあると思うのですけども、契約をした場合に、スギ薬局さん、全店舗での対応となっているのか、それとも特にスギ薬局さんでこの店舗とこの店舗とかというようなものがあるのか、その辺どうなんですかね。

こちらでちょっとわかっていないものですから、それを教えていただきたいと思ひまして。

●伊地知総務課長

先ほどのスギ薬局の話は、ずっと元気プロジェクト、SIBのプロジェクトでして、契約については、今お答えできないんですが、基本的にはスギ薬局さんという名前で、ある店舗でやっているということはこちらで承知はしているのですが、どちらの店舗でとか全店舗でとかについては全然今わからない状況です、すみません。

○加藤会長

SIBという取り組みが、ここの部じゃないらしいです。企画政策部がやっているものなので、明確にはわからないそうです。

○吉田委員

はい、わかりました。

○加藤会長

その他何かございませんか。では、今の話を踏まえまして、またこれから進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。それでは次の議事に入りたいと思います。

【協議事項】

(2) 今年度の重要取組について

●佐野保健部副部長

重点取組の概要について説明

●河合感染症予防課長

重点取組事業の項目番号1「新型コロナウイルス感染症対策の推進及び感染症

危機管理体制の整備」、重点取組事業の項目番号2「平時からの感染症予防対策及び大規模災害等発生時の体制強化」(1)(2)、重点取組事業の項目番号6「日常における食品衛生及び環境衛生の安全・安心の確保」(4)について説明

●伊地知総務課長

重点取組事業の項目番号2「平時からの感染症予防対策及び大規模災害等発生時の体制強化」(3)(4)、重点取組事業の項目番号3「まちぐるみで取り組む心とからだの健康づくりの充実」について説明

●長島地域保健課長

重点取組事業の項目番号4「地域特性に応じた地域主体の健康づくりの充実」について説明

●寺田保健支援課長

重点取組事業の項目番号5「精神障がい者や難病患者等の自立支援体制の推進」について説明

●浅井保健衛生課長

重点取組事業の項目番号6「日常における食品衛生及び環境衛生の安全・安心の確保」(1)～(3)、重点取組事業の項目番号7「人と動物の共生社会の推進」について説明

●宮川こども家庭課長

重点取組事業の項目番号8「子育て家庭への寄り添った支援の充実」について説明

○加藤会長

これに関しまして、全体を通してのご意見、ご質問がございましたら、よろしくお願いいたします。

○岩月委員

新型コロナウイルスの感染に関して、5月8日以降、それまでは毎日何人新規感染者があった、入院者がどう、重症者が、というような情報がずっと毎日毎日流されていましたが、その後そういった情報がなくなり、今現在は何か定点観測で、しかも、若干タイムラグがあつての発表だと聞いていますが、そのようなデータ自体もどのような形で入手することができるのかなという。

例えば今でも、最近感染者が増えていますよというようなことを聞きますが、どれぐらい増えているのか、どんな状況なのかというのはなかなか把握できなく

て、特に私ども高齢者の健康体操の支援というのが、活動のかなりの部分占めているわけですが、活動に参加する方だとか、そういうところに感染状況というニュースがすごく影響するため、できればそういうものを把握しながら、十分注意しなければいけないのか、もう少し安心して参加してもいいのか、そんなところを知りたいということなんですけれども、よろしく願いいたします。

●河合感染症予防課長

定点報告につきましては、市内です、新型コロナに関する定点報告の対象となる医療機関を9か所定めてございます。そこから毎週1回確認された患者数のご報告をいただきまして、1週間分を取りまとめて翌週公表という流れで数字を出させていただいております。流行状況をどの程度反映しているかというのは正直、単市レベルだと難しいところがございます。この定点報告による感染動向の把握というのがそもそもですね、広域的に数字を把握して、少なくとも都道府県単位以上、できれば全国単位で数値を集計する中で動向を推測するというところで、制度が設計されておりますのと、あとまた現状ですね、その定点報告数が過去でいう警報のようなものの数値などが定まっておればいいんですけれども、どの程度の数値であれば注意報、警報等のレベルに相当するかといった指標がまだ定められていない状況ですので、なかなか市として、正確な感染動向はこれぐらいですよということを出しづらいという状況がございますが、ただ直近の状況を見ますと、後程、数字出させていただいておりますけれども、感染がどんどん増えてきている状況ですので、市のホームページなどを用いて、ちょっと状況が増えている、感染対策に注意していただきたいということはお知らせしております。引き続き情報発信に努めて参ります。

○加藤会長

私たちが触れることのできる場所というのは、市のホームページというイメージ、そういう受け取り方でよろしいでしょうか。

●河合感染症予防課長

そうですね、まずはそこをご確認いただきたいと思います。

○岩月委員

はい、ありがとうございました。

○加藤会長

ご質問ありがとうございました。もう本当に多岐にわたるといえるのか、その取組重点項目があったと思うんですけど、今の食環境というところもありましたが、そういった食品衛生協会の宮澤委員、何かご意見とかありますか。

○宮澤委員

最近 HACCP の啓蒙活動云々ということでありましたけど、当初、取り入れて、こういうものということで、どんどん進んできておりましたけど、ちょっとここへ来て足並みがずれてきておるといのか、感染症のおかげで、調査に行けるという日にちが少なくなってきた部分だけ、どうもその HACCP のチェックができていないという部分がありますので、もう少しいい方法を考えながら、少しずつこの HACCP の啓蒙に向けて努力をしてみようかなというようなことがあります。あとそれも県の方から詳しい情報が出てきましたら、皆さんの方へご相談しながら進めていきたいと思っております。

○加藤会長

ありがとうございます。よろしく願いいたします。その他何か、田代委員何かご意見とかご質問とかございませんか。

○田代委員

資料の4ページに、健康づくり豊田21計画（第三次）の推進ということで、8020から9020への推進ということが書かれておりますが、これは8020運動の達成率が50%昨今オーバーしているという状況の中で、9020への推進というのは非常に素晴らしいことだと思っておりますが、果たしてこの9020が目標となるのかどうかという検証も必要じゃないかなというふうに考えておりますし、またあと③ですね、こころの健康づくりの推進ということで、ゲートキーパー養成研修の実施と。先ほどの自殺対策の問題に絡んでですが、大変基本的な質問で恐縮ですが、そもそもゲートキーパーさんの役割、それとですね、例えば悩んでみえる方が相談したい場合なんか、どういった方法でもって、ゲートキーパーさんにアプローチしていったらいいのかというような大変基本的な質問で恐縮なんですけど、その辺りをちょっと教えていただきたいなと思います。

○加藤会長

今の回答は、いいですか。

●伊地知総務課長

先ほど最初にご意見ありました8020から9020へというところですが、現行の計画についてはこういった記載がございますので、これに基づいて推進させていただいておりますが、先ほど最初の説明の方でも、鷹見の方から説明がありましたけども、次の計画を今考えている中で、こういった口腔のことについても、もちろん一緒に考えていきたいと考えておりますが、9020を引き続きやっていくのかどうかというのも、それは踏まえて、この次の計画の方に盛り込んでいき

たいと思っておりますので、9020という言葉がふさわしいかどうかも含めて、次の計画に反映させていただきたいと思っておりますので、また計画もご覧いただければいいかなと思っております。

あとゲートキーパーの養成研修の方ですけども、確かに啓発ですね、ゲートキーパーを養成させていただいて、ゲートキーパーという方を増やしていくということがまずは第一歩かと思っております。また、最初の方でも説明をさせていただきましたが、ゲートキーパーを知っているという方も少ない状況でございますので、まずはゲートキーパーを増やしていきたいと考えています。なので、これでゲートキーパーを担える方が増えてくれば、そういった方が近くにいれば、より話しやすいというようなこともありますので、そういったところからまずは進めていくべきかと思っております。なかなか自殺対策は、難しいというようなところも、すごくこちらの方としても感じておりますので、あらゆる対応をさせていただくことによって、個人が抱える問題を解決できるような場所ですとか、人を作っていくことが必要かと思っておりますので、そこを次の計画に盛り込んでいきたいと考えております。よろしく申し上げます。

○田代委員

ありがとうございました。

○加藤会長

また一応言葉の確認ですが、8020は80歳で20本の歯が残っているって話ですね。9020は90歳になってもまだ20本残っているという、そういう意味ですね。その他何か。

○吉田委員

今話があったゲートキーパーですけども、薬剤師会や薬剤師の方でも、県の方で年1回、ゲートキーパー講習会というのをやらさせていただいて、ゲートキーパーの養成をしている状況です。多分本当に自殺願望のある人は、本人からまず相談をしないであろうというのが一般的な話だと思うんですけども、その中で、自殺願望がある方をいかに探すかということで薬局としても協力をさせていただきたいなという思いで、養成講座をやらせてもらっています。

あともう2点ですけど、地域保健課の方の糖尿病ハイリスク者への受診勧奨とか評価、保健指導等スキル向上の中で、やはり多分薬局に来られる患者さんをこちら側で本当に糖尿病ハイリスク者なのかどうなのかというのが、薬を見た中でもイメージはできると思うんですよね。

その中でそういう受診勧奨だとか、あと、服薬コンプライアンスの指導もさせていただければと思っておりますし、保健指導についても、それなりの形で薬剤師として助言できればと思っておりますので、そこら辺もうちょっと薬剤師として協

力させていただければなという思いをしています。

もう1点個人的な意見というか、何ていうか、精神障がい者ってこの言葉って、多分この精神障がい者の害がひらがなになっているのが、害という漢字を使わないようにということで、ひらがなになっていると思うのですが、何かこの精神障がい者といという言葉が、精神疾患罹患者だとか、そんな言葉になると一般の方の受け入れやすさというのがあるのかなという気がするのですが、どうしても精神障がい者って薬局の方で「障がい者受給者証見せてもらえますか。」というの、今ひとつちょっと抵抗感があるんですね。そんなことも思いますので、その辺も国の制度の中でということなのでなかなか難しいと思いますが、そこら辺もちょっと意見を出していただければなということも思います。よろしくお願いします。

○加藤会長

貴重なご意見ありがとうございます。今の話も、また進めていただければというふうに思います。ちょっと時間が押してきましたので、次の議題に入りたいと思います。

【報告事項】

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応状況について

●河合感染症予防課長

新型コロナウイルス感染症への対応状況についての説明

○加藤会長

何かご意見とかはありませんか。ご意見ご質問とかは、よろしいでしょうか。

では、全体を通して、何かご意見とかご質問とかございませんでしょうか。意見は出尽くしたというようですので、議事については終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

— 以上 —